

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【公開番号】特開2000-186199(P2000-186199A)
 【公開日】平成12年7月4日(2000.7.4)
 【出願番号】特願平10-363987
 【国際特許分類】

C 0 8 L 77/00 (2006.01)
C 0 8 J 3/20 (2006.01)
C 0 8 K 3/10 (2006.01)
C 0 8 K 3/16 (2006.01)
C 0 8 K 7/14 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 77/00
 C 0 8 J 3/20 C F G B
 C 0 8 K 3/10
 C 0 8 K 3/16
 C 0 8 K 7/14

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月20日(2005.12.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (A)ポリアミド樹脂、(B)無機充填材、(C)銅化合物、及び、(D)ハロゲン化アルカリからなり、溶融混練前のポリアミド樹脂ペレットの水分率が0.1～1.0重量%であって、(A)、(B)、(C)、及び、(D)の量をそれぞれA重量%、B重量%、C重量%、及び、D重量%とした時、 $A + B + C + D = 100$ 、 $35 \leq A \leq 100$ 、 $0 \leq B \leq 60$ 、 $0.003 \leq C \leq 0.2$ 、 $0.03 \leq D \leq 6$ を満足することを特徴とするポリアミド樹脂組成物。

【請求項2】 (B)無機充填材がガラス繊維であることを特徴とする請求項1～3のいずれか記載のポリアミド樹脂組成物。

【請求項3】 (C)銅化合物が、ヨウ化銅、酢酸銅から選ばれた少なくとも1種であることを特徴とする請求項1～4のいずれか記載のポリアミド樹脂組成物。

【請求項4】 (D)ハロゲン化アルカリが、ヨウ化カリウム、臭化カリウム、塩化カリウム、塩化ナトリウムから選ばれた少なくとも1種であることを特徴とする請求項1～5のいずれかに記載のポリアミド樹脂組成物。

【請求項5】 ポリアミド樹脂組成物が、ポリアミド樹脂の融点に20℃を加えた温度ないし340℃の温度で、溶融混練させて得られることを特徴とする請求項1～6のいずれかに記載のポリアミド樹脂組成物。

【請求項6】 請求項1～5のいずれか記載のポリアミド樹脂組成物を成形してなる成形品。

【請求項7】 請求項1～5のいずれか記載のポリアミド樹脂組成物において、(C)及び(D)を溶融重合時に(A)に添加することを特徴とするポリアミド樹脂組成物の製造方法。

